

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく
豊川の減災に係る取組方針

【既存ダムの洪水調節機能強化】

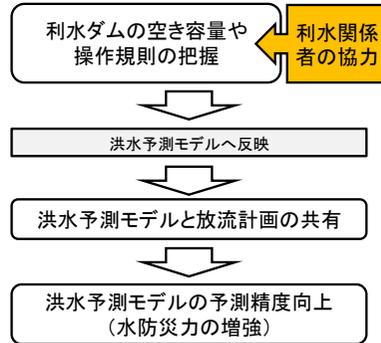
令和2年5月22日

豊橋河川事務所

既存ダムの洪水調節機能強化

既存ダムの運用方法の改善による洪水調節

- 「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能と情報の充実に向けて(提言) 平成30年12月異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検討会」では、『速やかに着手して対応すべきこと』として「利水ダムの治水への活用」を示している。



利水ダムの空き容量を把握し、利水関係者へ洪水貯留の協力を要請

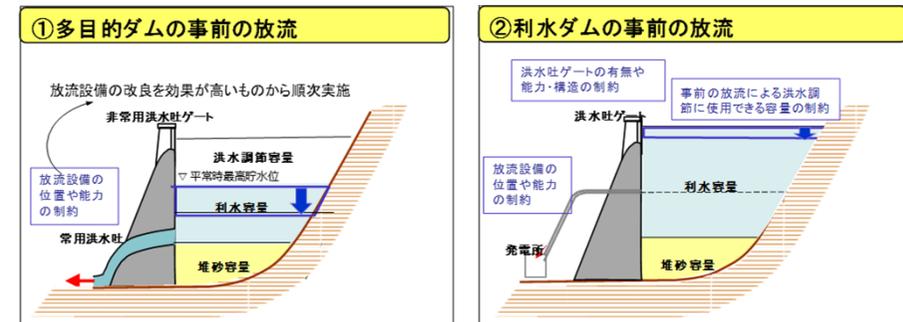
既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議

(令和元年11月26日 内閣総理大臣決議)

- ダムによる洪水調節機能の早期の強化に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、総合的な検討を行うため、内閣総理大臣補佐官を議長とした「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議(第1回)」が、令和元年11月26日に開催された。
- この会議においても、洪水が予測された際に、多目的ダム及び利水ダムの利水容量を事前に放流し、洪水調節に活用することをさらに推進していくことが示された。

◆利水容量の洪水調節への活用

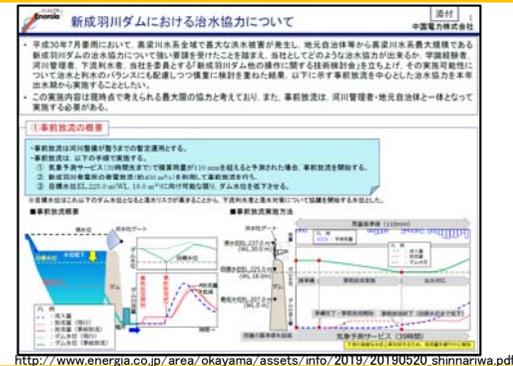
- ①多目的ダムの事前の放流(河川管理者が利水者の協力のもとに実施)** ※国交省所管ダムのうち54ダムで実施体制確保済み
 - 道府県管理ダムを含めた総点検を行い、施設改造が不要なダムで推進
 - 施設改造等が必要な場合は治水効果の高いものから順次実施
 - ②利水ダムの事前の放流(利水ダム管理者が河川管理者と協議のうえ実施)** ※利水ダムのうち7ダムで実施体制確保済み
 - 一定規模以上かつ洪水吐ゲート等を有し、効果が見込まれるダムを優先的に実施
- ◆緊急時における道府県管理ダムを含めた統合運用・事前の放流
- 降雨予測等の精度向上を踏まえ、操作規則を見直し、道府県管理ダム、利水ダムを含め、水系でダムの機能の最大限活用



出典: 既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議(第1回)国土交通省説明資料

利水関係者の治水協力の事例

- 中国電力株式会社岡山支社は以下の内容を検討
 - 平成30年7月豪雨時の検証
 - 事前放流の実施可能性と効果
 - 事前放流開始の条件
 - 事前放流実施による効果の限界とリスク
 - 情報公開
- 河川管理者、関係自治体の理解と協力を得つつ、2019年の梅雨期からの実施に向け、準備を進めている。



豊川 ダムの位置図、諸元

【豊川の現状】

- 現在、豊川では水資源機構が管理する3ダム(大野頭首工:構造分類はダム)及び建設中である設楽ダムがあり、洪水調節機能を有するダムがない。
- 豊川のダム群では、総貯水容量は4,200万m³、有効貯水容量4,000万m³、内洪水調節容量はなく、設楽ダムが完成した場合有効貯水容量13,200万m³に対して、1,900万m³であり全体の約14%となる。



【豊川におけるダム群一覧表】

名称	総貯水容量 (万m ³)	有効貯水容量 (万m ³)※1	流域面積 (km ²)	目的
国交省 設楽ダム (建設中)	(9,800)	(9,200)	62.0	FNAW
愛知県 宇連ダム	2,911	2,842 (予備放流水位常高-1.0m)	26.3	AIW
大島ダム	1,200	1,130 (予備放流水位常高-1.0m)	18.4	A
大野ダム	110	90.6 (予備放流水位常高-4.0m)	129.9	(AIW) 頭首工
合計	(14,021)	(13,172)		
	4,221	3,972 (1,900)		

※1: □ 書きは、設楽ダムが完成した場合の容量